



福缶

震災復興の東北を応援したいという想いを込め、無印良品（株式会社良品計画）が青森・岩手・宮城・福島の14種類の縁起物を缶に詰めて2012年のお正月に販売したことがはじまりの福缶。徐々に地域を広げ、幅広く日本の縁起物が取り扱われています。

なみのりうま

GoodJob!センター香芝の2026年の干支「なみのりうま」は、「荒波にのって揺れ動く馬の姿には、困難に直面してもうまくいく」というメッセージを込めています。今年の福缶には3,300個の「なみのりうま」がセットされました。

福缶の縁起物の製造に至るまで

無印良品のデザイナーであり、福缶の企画を立ち上げたかたと「GoodJob!プロジェクト」を通してつながったことがきっかけで製造に至りました。

一人一人の個性や能力を活かして、20名ほどで製造しています。毎年2月に来年度のデザインを考え、4月頃に絵付けを始めます。2018年からの累計で25,000個ほどの縁起物を製造しました。



GoodJob!センター香芝

障害のある人とともに、アート・デザイン・ビジネスの分野を超えて、社会に新しい仕事をつくりだすことを目指して、2016年に開館された「GoodJob!センター香芝」。無印良品の商品である「福缶」には、2018年から干支や縁起物が採用され、今年で9年目を迎える。

所在地 香芝市下田西2-8-1 センター長 森下 静香

広報かしばをリニューアルします！

CHECK!

「広報かしば」は、創刊して以来、市民の皆さんにとって最も身近な情報媒体として香芝市の「今」を発信してきました。

令和7年4月号から「お知らせ版」と「広報かしば」の紙面を統一してフルカラー化し、縦書きから横書きに変更しました。

令和8年4月号からは、横書きの文章を読みやすくするため、右開きから左開きに変更します。

より親しみやすい紙面構成にして、市の情報を分かりやすく伝えていきます。

